

第 3 章 GUI カスタマイズ

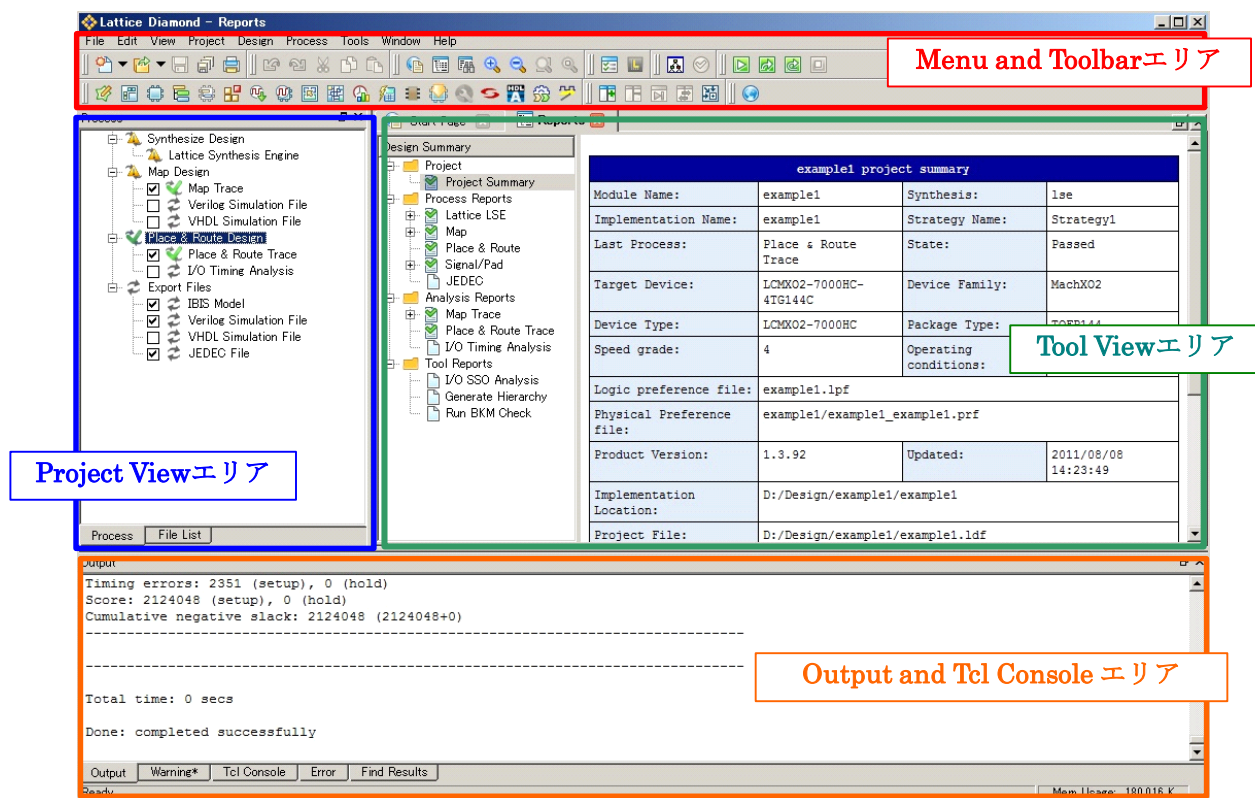
本章では Lattice Diamond Project Navigator の GUI のカスタマイズ方法や環境設定の方法について説明します。なお、Lattice Diamond またはプロジェクト・ナビゲータ (Project Navigator) と記述されている場合はどちらも Lattice Diamond Project Navigator を表すものとします。

3.1 プロジェクト・ナビゲータの構成と各部の機能

3.1.1 プロジェクト・ナビゲータの構成

本項では、プロジェクト・ナビゲータの基本的な構成や各ウインドウの名称等について説明します。プロジェクト・ナビゲータは大きく 4 つのウインドウに分けられます (図 3-1)。

図 3-1. Lattice Diamond Project Navigator の構成



3.1.2 Menu and Toolbar エリア

プロジェクト・ナビゲータの最上段のエリアで、プロジェクト・ナビゲータの操作のためのメニューバーや、各種ポイントツールを起動するためのアイコン等が配置されています。

3.1.3 Project View エリア

Project View はプロジェクト・ナビゲータの中段左側のエリアで、主にプロジェクト管理に関わるウィンドウが配置されます。

File List ウィンドウ

プロジェクトのインプリメンテーションやインポートしたデザインファイル、制約ファイル等が表示されるウィンドウです。

Process ウィンドウ

論理合成から配置配線までのプロセスフローと、その実行状況を表示するウィンドウです。

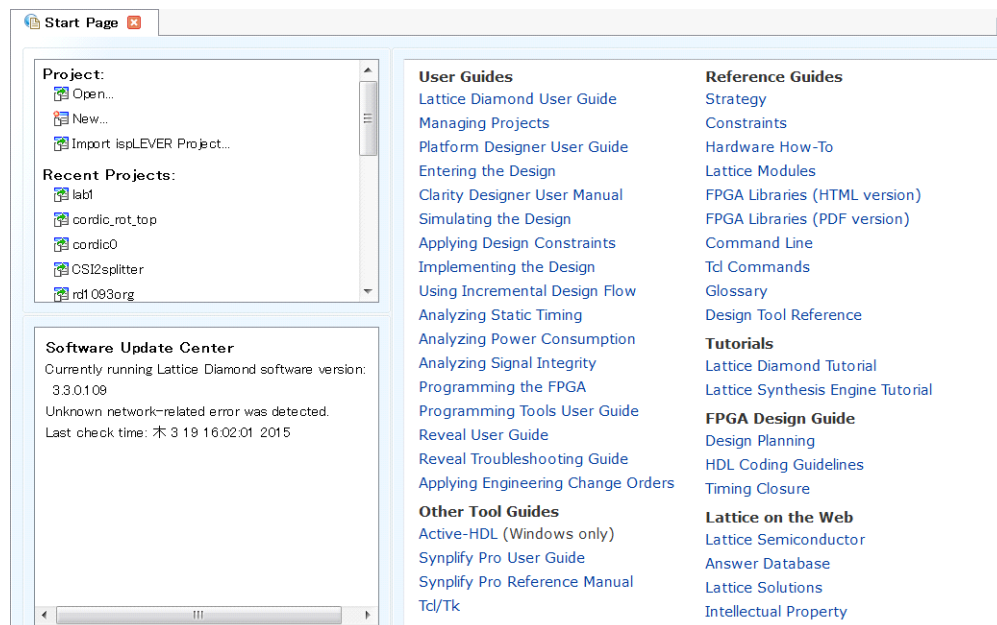
Hierarchy ウィンドウ

[Generate Hierarchy] 機能で解析したデザインの階層構造を表示するウィンドウです。

3.1.4 Tool View エリア

Tool View はプロジェクト・ナビゲータの中段右側のエリアで、Lattice Diamond 起動時に必要な情報をまとめた [Start Page ウィンドウ]、各種プロセスのレポート等を表示する [Report ウィンドウ] のほかに起動した各種ポイントツール（テキストエディタや消費電力計算などの各種 GUI）等が配置されます。

図 3-2. Start Page ウィンドウ



Start Page ウィンドウ

Start Page は Lattice Diamond 起動時に使用頻度の高い項目がまとめて表示されているウィンドウです。

- ・ プロジェクトの操作メニュー（プロジェクトの作成や open 等）
- ・ Lattice Diamond のアップデート情報（現行バージョンとアップデート情報のチェック日時）
- ・ ユーザーガイドやチュートリアル等の各種ドキュメントへのリンク

Report ウィンドウ

プロジェクトのサマリや実行した各種プロセスのレポートが表示されるウィンドウです。レポートを表示するインプリメンテーションをタブで切り替えることができます。

3.1.5 Output and Tcl console エリア

プロジェクト・ナビゲータのエリアで、各種ログの表示や、コマンドラインでプロセスを実行する際に使用する [Tcl console] が配置されています。

3.2 各エリアのカスタマイズ

Lattice Diamond では、エリアごとに表示方法等のカスタマイズが行えるようになっています。本節では各エリアで可能なカスタマイズ内容とその方法について説明します。

3.2.1 Menu and Toolbar エリアのカスタマイズ

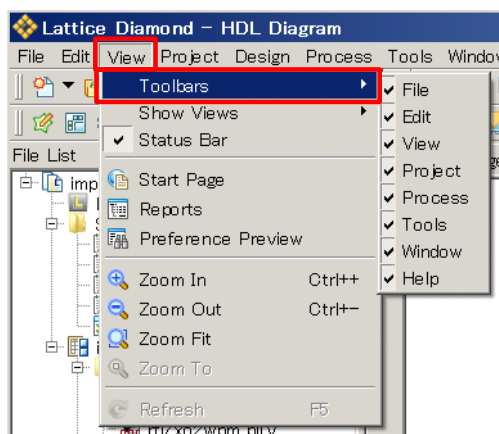
Menu and Toolbar エリアでは、以下の内容についてカスタマイズすることができます。

- ・ Toolbar に表示するアイコンの選択

3.2.1.1 Toolbar に表示するアイコンの選択

Menu and Toolbar エリアでは、デフォルトでは全てのアイコンが表示されていますが、不要なアイコンは非表示にすることができます。アイコンの表示／非表示切り替えは、類似した操作内容のグループごとに行います。メニューバーから [View] => [Toolbars] の順に選択すると表示されるリストから、グループ名を選択すると表示／非表示が切り替わります。

図 3-3. Toolbar のアイコン表示／非表示切り替え



表示されるリストにチェックが入っていると、そのグループは表示されていることを表します。その状態でリストから選択すると、チェックが外れてアイコンが非表示になります。リストのグループ名と対応するアイコンと主な処理内容は図 3-4 および表 3-1 を参照してください。

図 3-4. リストのグループ名とアイコンの対応

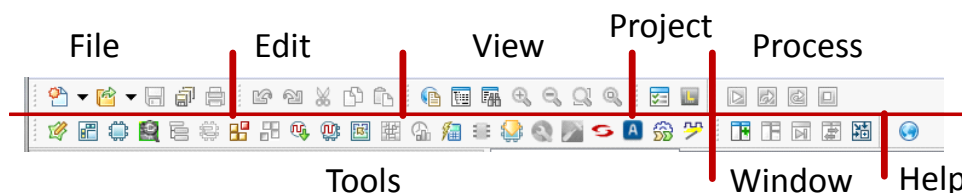


表 3-1. アイコンのグループの主な処理内容

グループ名	内 容
File	ファイルやプロジェクトの open/close や保存関連のアイコン
Edit	テキストエディタや各種 GUI ツールの編集作業に使用するアイコン（undo, redo 等）
View	Tool View エリアの特定ウインドウの選択や、GUI ツールの表示制御（拡大、縮小等）に使用するアイコン
Project	Property ウィンドウの open やデバイス選択に使用するアイコン
Process	プロセスの実行や停止に使用するアイコン
Tools	各種ポイントツールを起動するアイコン
Window	Tool View エリアのウインドウ表示カスタマイズに使用するアイコン
Help	Lattice Diamond の update の有無を確認するアイコン

3.2.2 Project View エリアのカスタマイズ

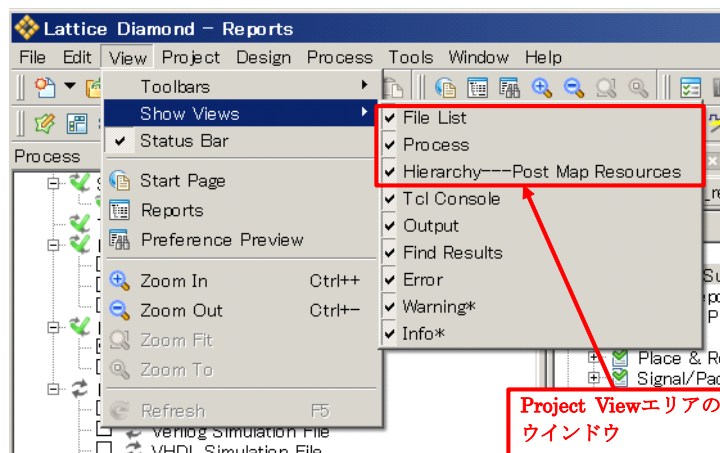
Project View エリアでは、以下の内容についてカスタマイズすることができます。

- ・ ウィンドウの表示／非表示切り替え
- ・ ウィンドウの多重／独立表示
- ・ ウィンドウのアタッチ／デタッチ

3.2.2.1 ウィンドウの表示／非表示切り替え

ウィンドウ右上のボタン  をクリックすることでウィンドウを非表示にできます。また、メニューバーから [View] => [Show Views] の順に選択すると現れるメニューで、表示／非表示を切り替えることもできます（図 3-5）。

図 3-5. Project View エリアのウィンドウ表示／非表示切り替え



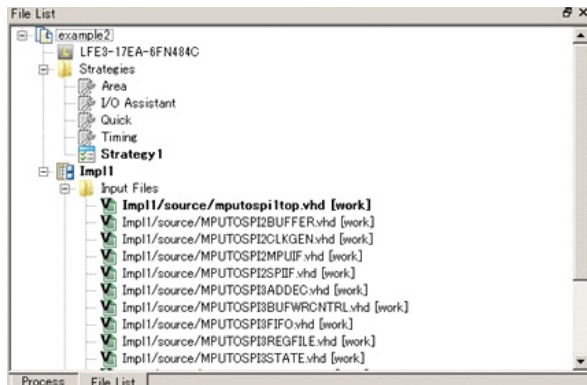
リストには Project View エリアと Output and Tcl console エリアのウィンドウ名が表示され、左側にチェックマークが付いているものが表示されているウィンドウです。このメニュー上でウィンドウ名を選択するとウィンドウの表示／非表示が切り替わります。

3.2.2.2 ウィンドウの多重／独立表示

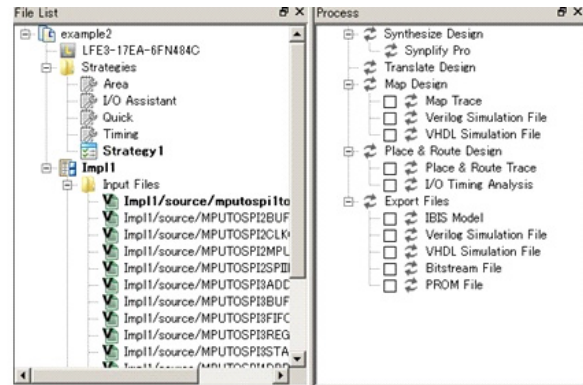
Project View エリアのウィンドウは、デフォルトでは多重して表示されます。これをエリア内で独立したウィンドウとして表示させるには、ウィンドウのタイトルバーをつかんでエリア内にドラッグします（エリア外にドラッグした場合は **3.2.2.3 項**参照）。

図 3-6. Project View エリア内での多重／独立表示の切り替え

Project View エリア内で多重表示

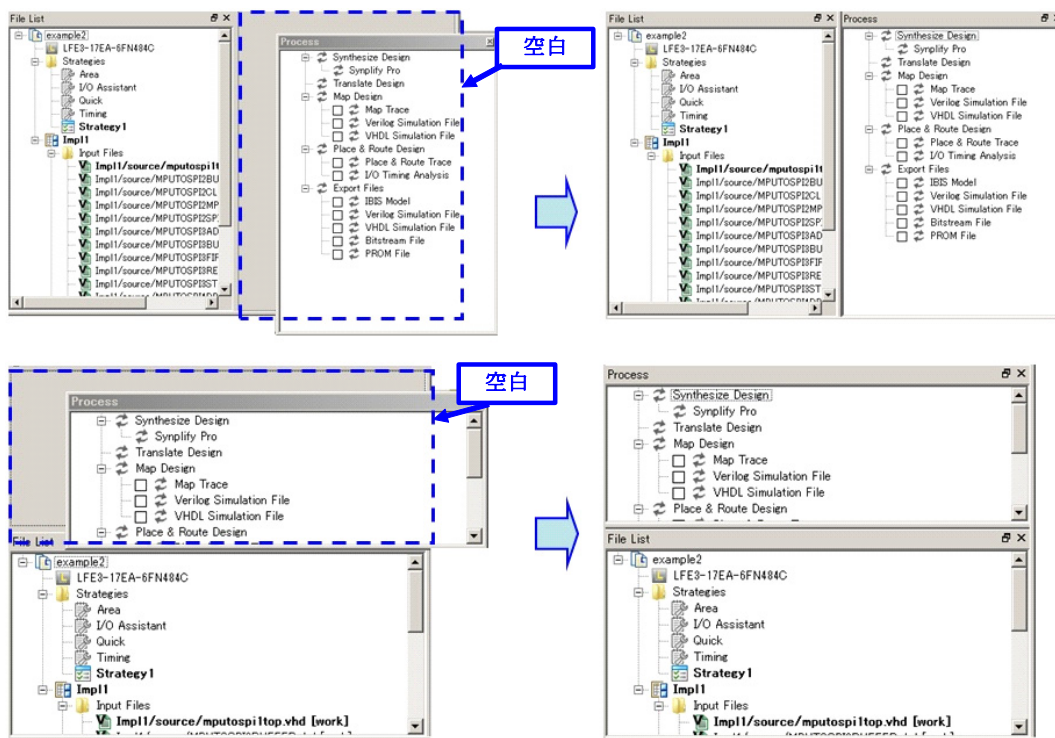


Project View エリア内で独立表示



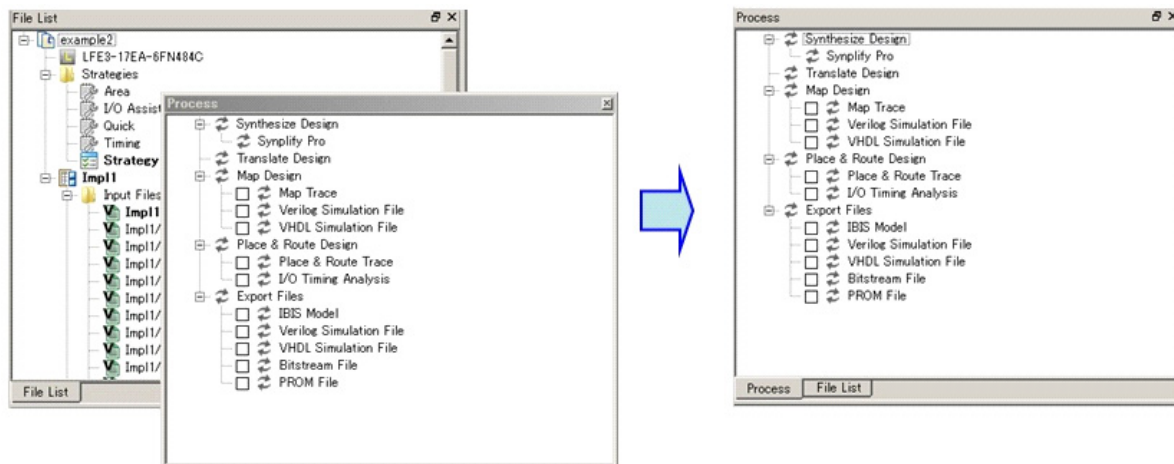
ドラッグしたウィンドウの表示方法は、ドラッグされていないウィンドウの表示で決まります。ウィンドウがエリア内にドラッグされると、ドラッグされていないウィンドウの周辺に空白が表示されます。ドラッグされたウィンドウはその空白部分に表示されます（図 3-7）。

図 3-7. 空白表示とウィンドウの配置例



元の多重表示へ戻す場合は、空白ができていない状態でドラッグします（図 3-8）。

図 3-8. 多重表示へ戻す場合の例



Project View エリアの空白は、基本的にドラッグしてきたウインドウのある方向にできます。ドラッグしたウインドウが Project View エリアの中心付近にあると、空白はできません。

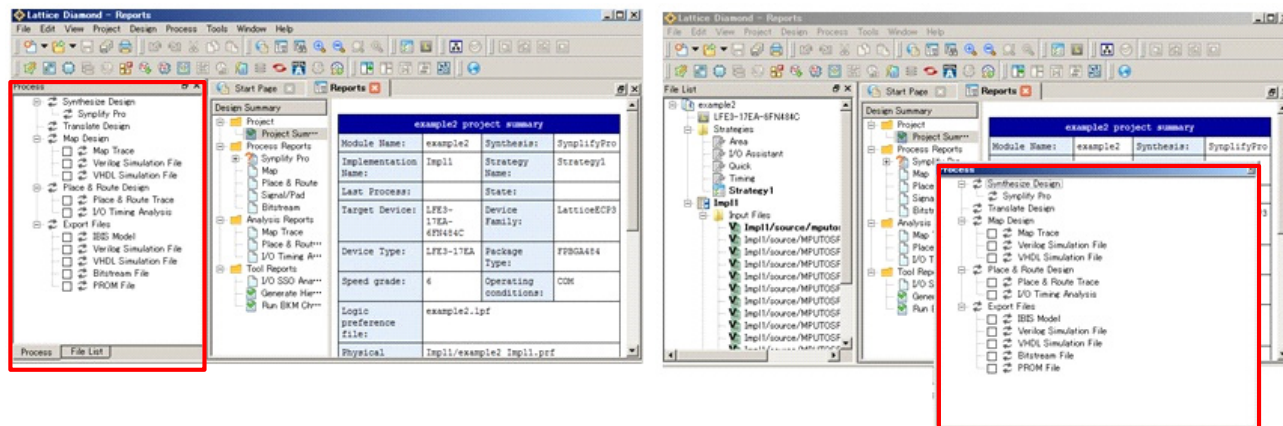
3.2.2.3 ウインドウのアタッチ／デタッチ

Project View エリアのウインドウは、デフォルトではプロジェクト・ナビゲータに組み込まれた状態（アタッチ：attach）になっていますが、独立したウインドウ（デタッチ：detach）として表示させることができます。アタッチされているウインドウをデタッチするには、ウインドウのタイトルバーをつかんでエリア外にドラッグするか、ウインドウ右上にある  アイコンをクリックします。

図 3-9. ウインドウのアタッチとデタッチ

アタッチ状態の File List ウインドウ

デタッチ状態の File List ウインドウ



デタッチ状態のウインドウをアタッチ状態に戻す場合は、ウインドウのタイトルバーをつかんでエリア内にドラッグします。ドラッグされたウインドウは多重／独立表示切替えと同じで、エリア内の空白部分に配置されます。

3.2.3 Tool View エリアのカスタマイズ

Tool View エリアでは、以下の内容についてカスタマイズすることができます。

- ・ ウインドウの表示／非表示切り替え

- ・ ウィンドウの分割表示と多重表示
- ・ ウィンドウのアタッチ／デタッチデタッチ
- ・ レイアウトの保存と呼び出し

3.2.3.1 ウィンドウの表示／非表示切り替え

[Start Page] および [Report] ウィンドウは、プロジェクト作成時に自動的に表示されます。その他のツールはメニューやアイコンから起動すると Tool View エリアに表示されます。どのウィンドウも、ウィンドウ右上の  ボタンか、タブのウィンドウ名の右側の  ボタンをクリックすると非表示になります。

非表示にした [Start Page] および [Report] ウィンドウを再度表示させるには、メニューバーから [View] => [Start Page] (または [Report]) の順に選択するか、ツールバーから Start Page か Report アイコンをクリックします。



Start Page



Report

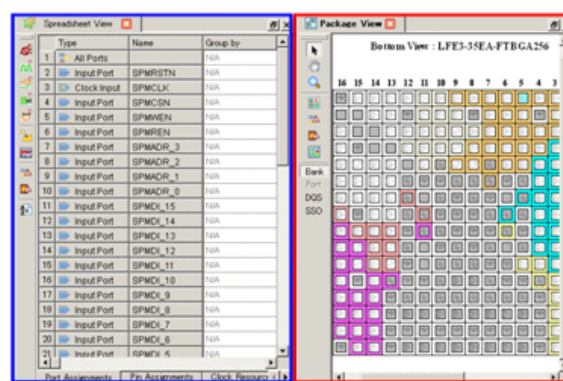
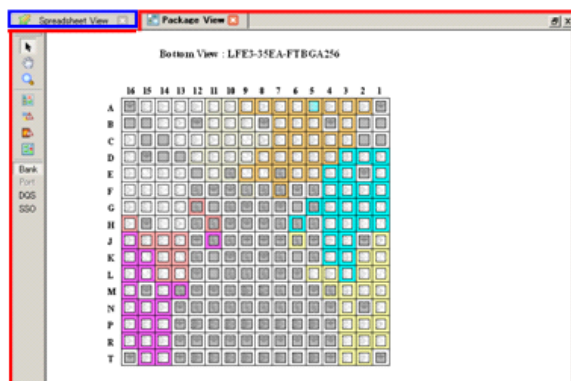
3.2.3.2 ウィンドウの分割表示と多重表示

Tool View エリアのウィンドウは、デフォルトでは複数のウィンドウが多重 (merge) されて表示されています。この多重されたグループを Tab Group と呼びます。Tool view エリアに2つまで Tab Group を分割 (split) することができます。

図 3-10. Tool View エリアでのウィンドウ分割とマージ

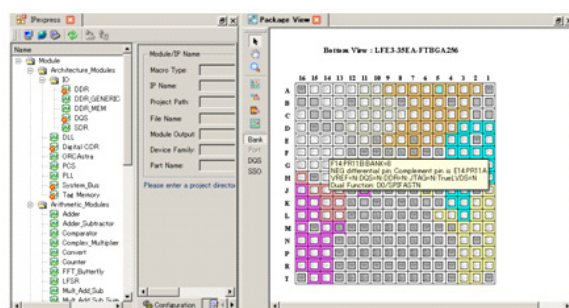
マージされた状態

分割された状態

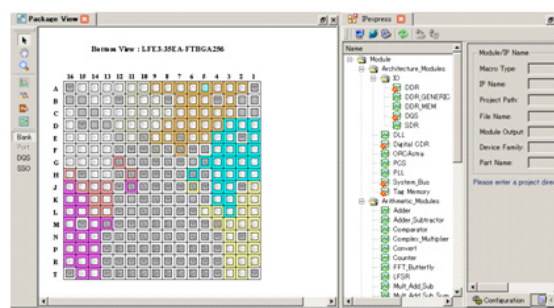


分割するには、分割したいウィンドウのタブを選択した状態で、メニューバーから [Window] => [Split Tab Group] の順に選択するか、もしくはツールバーの  アイコンをクリックします。

図 3-11. tab group の配置入れ替え例



Switch position



分割したウインドウを再度マージするには、メニューバーから [Window] => [Merge Tab Group] の順に選択するか、もしくはツールバーの  アイコンをクリックします。2 つの tab group の配置を入れ替える場合は、メニューバーから [Window] => [Switch Tab Group position] の順に選択するか、もしくはツールバーの

 アイコンをクリックします。

Tool View エリアに 3 つ以上のウインドウが開いている場合、分割された tab group 間を移動させることもできます。この場合は、移動させたいウインドウを選択した状態でメニューバーから [Window] => [Move to

Another Tab Group] の順に選択するか、もしくはツールバーの  アイコンをクリックします。また、ウインドウの他の Tab Group にドラッグすることでも移動させることができます。

3.2.3.3 ウインドウのアタッチ／デタッチ

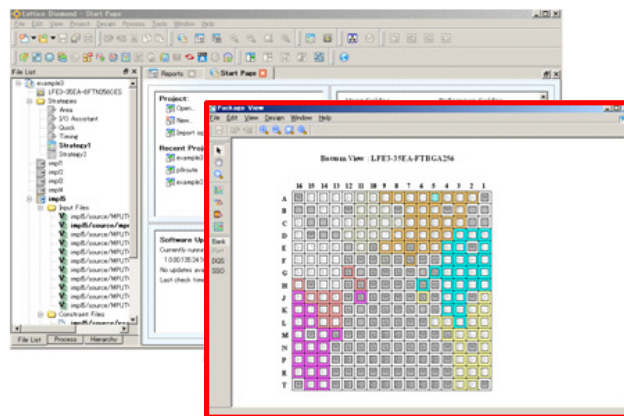
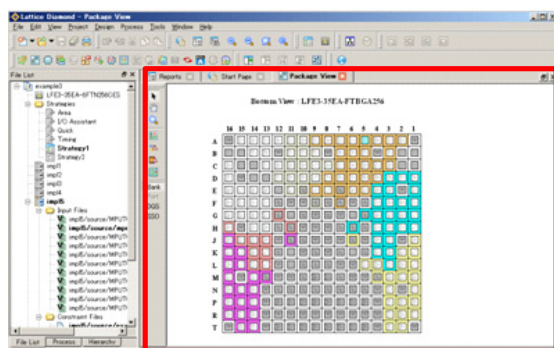
Tool View エリアのウインドウは、デフォルトではプロジェクト・ナビゲータに組み込まれた状態 (attach) になっていますが、独立したウインドウ (detach) として表示させることができます。アタッチされている

ウインドウをデタッチするには、ウインドウ右上の  アイコンをクリックします。

図 3-12. ウインドウのアタッチとデタッチ

アタッチ状態のウインドウ

デタッチ状態のウインドウ



個別にデタッチ状態のウインドウをアタッチ状態に戻す場合は、デタッチされているウインドウ右上の

 アイコンをクリックします。Project View とは異なり、ウインドウをドラッグしてもアタッチ／デタッチは切り替わりません。

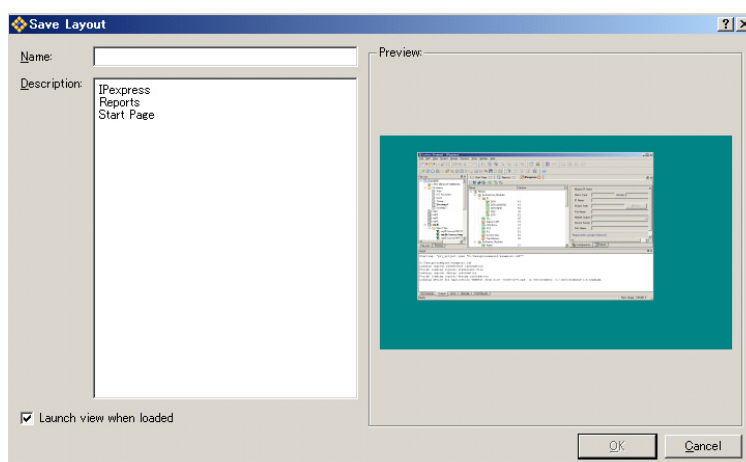
デタッチされているウインドウ全てをアタッチするには、メニューバーから [Window] => [Integrate all Tolls] の順に選択するか、 アイコンをクリックします。なお、どちらの場合も Tool View エリアが分割されている場合は最後にクリックしたウインドウのある tab group にアタッチされます。

3.2.3.4 レイアウトの保存と呼び出し

カスタマイズしたウインドウのレイアウトを保存し、必要に応じて呼び出すことができます。カスタマイズしたレイアウトを保存するには、適当なウインドウのレイアウトにした状態でメニューバーから [Window] => [Save Layout] を選択します。すると、レイアウト保存の設定ウインドウが起動します (図 3-13)。

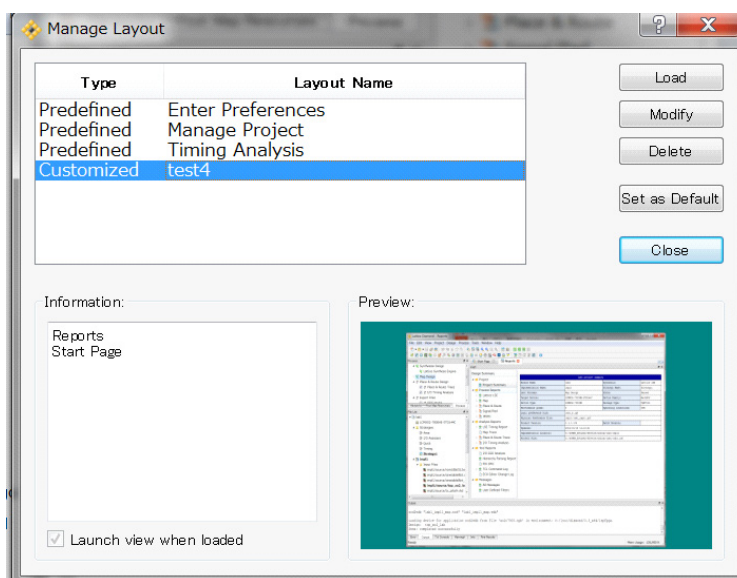
[Name] 欄には、保存するレイアウト名を入力します。この名称は、後で呼び出す際に使用します。ウインドウの左下には [Launch view when loaded] チェックボックスがあります。これにチェックが入っていると、レイアウトを呼び出した際に起動していないツールやウインドウがあった場合、それらを自動的に起動してレイアウトを再現します。チェックが入っていない場合は、起動しているツールやウインドウだけでレイアウトが再現されます。

図 3-13. レイアウト保存の設定ウインドウ



必要な部分の入力が完了したらウインドウ右下の [OK] ボタンをクリックします。保存したレイアウトを呼び出すには、メニューバーから [Window] => [Manage Layout...] の順に選択します。すると、レイアウトの選択ウインドウが起動します (図 3-14)。ウインドウ左上には、作成されたレイアウト名の一覧が表示されています。この中から何かを選択すると、ウインドウ左下にはレイアウトに含まれるウインドウの一覧が、ウインドウ右下にはレイアウトのイメージが表示されます。

図 3-14. レイアウト選択ウインドウ



レイアウト名を選択してウインドウ右上の [load] ボタンをクリックすると、保存したレイアウトが再現されます。なお、レイアウトを load した際に起動しているレイアウトに含まれないツールは閉じられずそのまま残ります。

3.2.4 Output and Tcl console エリア

Output and Tcl console エリアでは、以下の内容についてカスタマイズすることができます。

- ・ ウインドウの表示／非表示切り替え
- ・ ウインドウの多重／独立表示切り替え
- ・ ウインドウのアタッチ／デタッチ

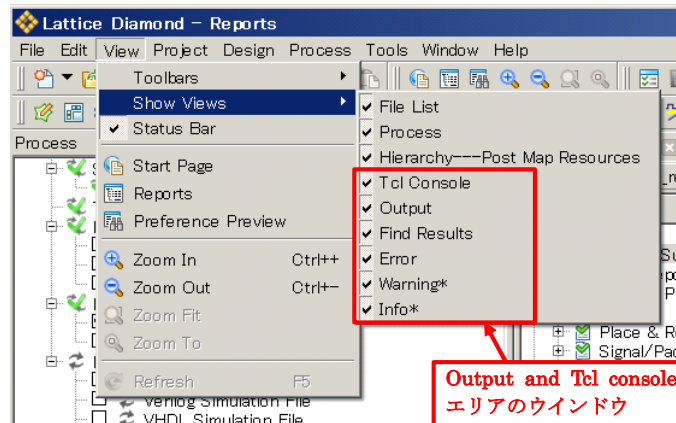
- ・ステータスバーの表示／非表示切り替え

3.2.4.1 ウィンドウの表示／非表示切り替え

不要なウィンドウ右上のボタン  をクリックすることでウィンドウを非表示にすることができます。また、メニューバーから [View] => [Show Views] の順に選択すると現れるメニューで、表示／非表示を切り替えることもできます (図 3-15)。

リストには Project View エリアと Output and Tcl Console エリアのウィンドウ名が表示され、左側にチェックマークが付いているものは、表示されているウィンドウです。このメニュー上でウィンドウ名を選択するとウィンドウの表示／非表示が切り替わります。

図 3-15. Output and Tcl Console エリアのウィンドウ表示／非表示切り替え



3.2.4.2 ウィンドウの多重／独立表示切り替え

Output and Tcl Console エリアのウィンドウは、デフォルトでは多重して表示されます。これをエリア内で独立したウィンドウとして表示させるには、ウィンドウのタイトルバーをつかんでエリア内にドラッグします (エリア外にドラッグした場合は 3.2.4.3 項参照)。

図 3-16. エリア内での多重表示と独立表示 ~ Output ウィンドウの例

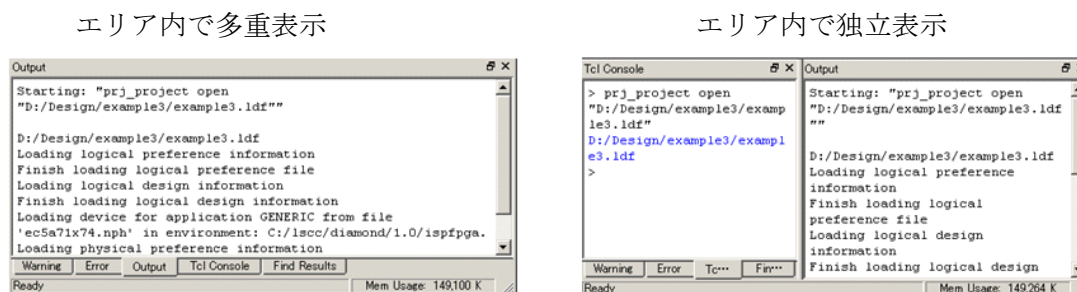
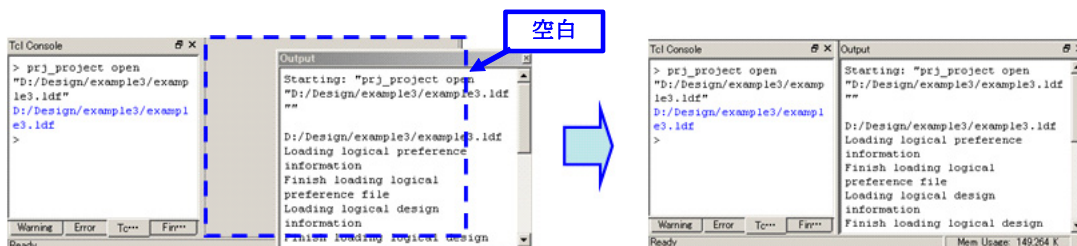
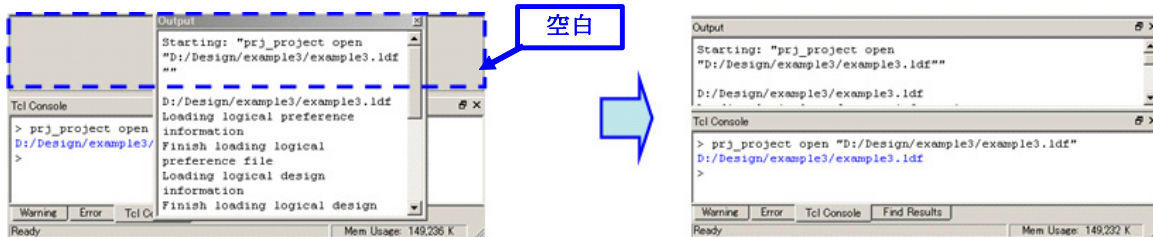


図 3-17. 空白表示とウィンドウの配置例 1



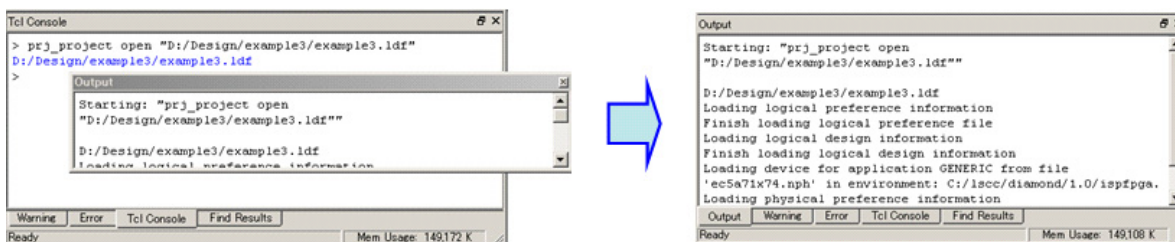
ドラッグしたウインドウの表示方法は、ドラッグされていないウインドウの表示で決まります。ウインドウがエリア内にドラッグされると、ドラッグされていないウインドウの周辺に空白が表示されます。ドラッグされたウインドウはその空白部分に表示されます (図 3-17、図 3-18)。

図 3-18. 空白表示とウインドウの配置例 2



元の多重表示へ戻す場合は空白ができていない状態でドラッグします (図 3-19)。

図 3-19. 多重表示へ戻す場合の例



Output and Tcl Console エリアの空白は、基本的にドラッグしてきたウインドウのある方向にできます。ドラッグしたウインドウがエリアの中心付近にあると、空白はできません。

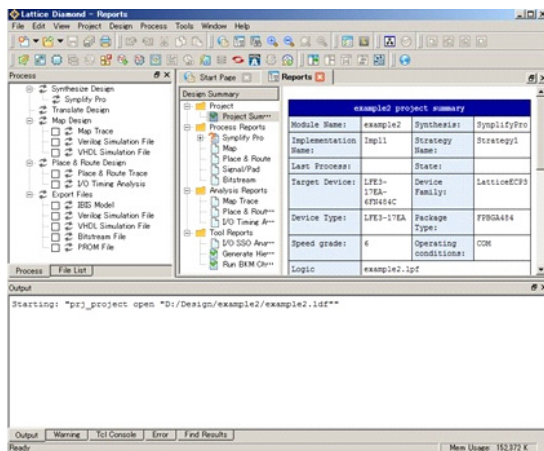
3.2.4.3 ウインドウのアタッチ／デタッチ

Output and Tcl Console エリアのウインドウは、デフォルトではプロジェクト・ナビゲータに組み込まれた状態 (attach) になっていますが、独立したウインドウ (detach) として表示させることができます。アタ

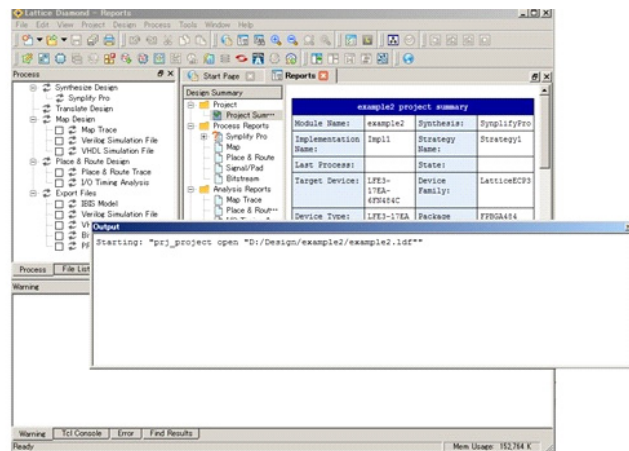
チされているウインドウをデタッチするには、ウインドウの右上アイコン  をクリックするか、ウインドウのタイトルバーをつかんでエリア外にドラッグします。

図 3-20. ウインドウのアタッチとデタッチ

アタッチ状態の Output ウインドウ



デタッチ状態の Output ウインドウ

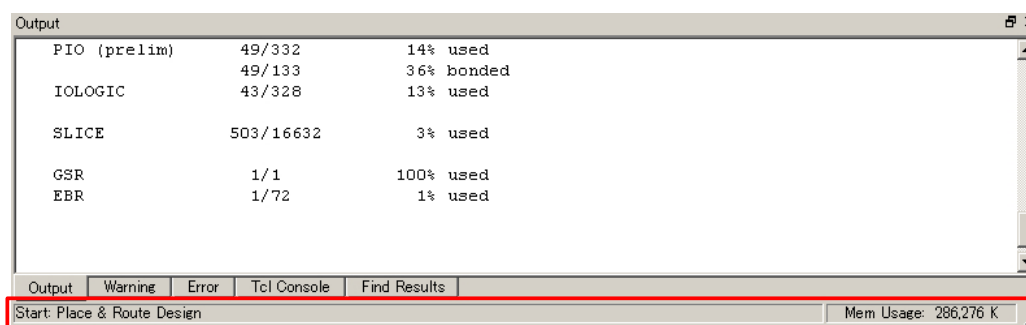


デタッチ状態のウインドウをアタッチ状態に戻す場合は、ウインドウのタイトルバーをつかんでエリア内にドラッグします。ドラッグされたウインドウは **3.2.4.2 項** の多重／独立表示切替えと同じで、エリア内の空白部分に配置されます。

3.2.4.4 ステータスバーの表示／非表示切り替え

ウインドウ最下部にあるステータスバーでは、現在実行中のプロセスやメモリの使用量が表示されます。

図 3-21. ステータスバー

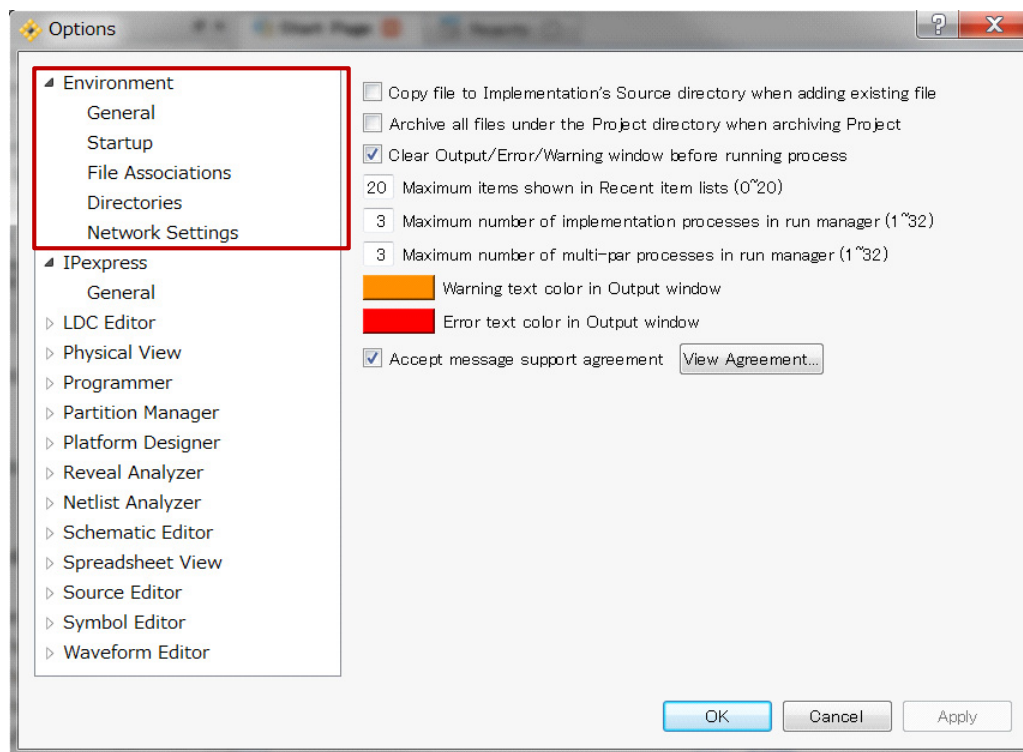


ステータスバーはデフォルトで表示されていますが、これを非表示にする場合はメニューバーで [View] => [Status Bar] の順に選択します。非表示の状態ですでに同じ手順を行えば、ステータスバーが表示されます。

3.3 プロジェクト・ナビゲータの環境設定

Lattice Diamond では、ユーザが好みに合わせて環境設定ができるようになっています。メニューバーの [Tool] => [Options...] の順に選択すると開くウインドウ上で、[Environment] 以下の項目がプロジェクト・ナビゲータの環境設定です。

図 3-22. プロジェクト・ナビゲータの環境設定



なお、このウインドウでは、各種ツールの設定（フォントや色設定）もできますが、本節ではプロジェクト・ナビゲータの環境設定についてのみ説明します。環境設定は、大きく以下の 5 項目に分かれています。

General	: プロジェクト・ナビゲータの全般的な設定
Startup	: プロジェクト・ナビゲータを起動した際の動作に関する設定
File Association	: ファイルの拡張子と、それを開くツール（テキストエディタ等）の関連付け設定
Directories	: 合成ツールとシミュレータのフォルダ設定
Network Setting	: ネットワーク接続（プロキシサーバ）の設定

3.3.1 General

General セクションでは主にプロジェクト・ナビゲータの動作に関わる設定ができます。

Copy file to Implementation's Source Directory when adding existing file

既存のデザインファイルをプロジェクトにインポートする方法のデフォルト値設定です（インポートの際に個別に選択することもできます）。チェックが入っていると、デフォルトが「選択したファイルをインプリメンテーション・フォルダにコピーし、それをインポートする」設定になります。チェックが入っていないと「選択したファイルをインポートする」設定になります。

Archive all files under the Project Directory when archiving Project

ファイルメニューから [Achieve Project] を実行し、プロジェクトを圧縮保存する場合の対象ファイルの選択設定です。チェックが入っていると、当該プロジェクトとの関連を問わずプロジェクトフォルダ以下の全てのファイルおよびフォルダが圧縮されます。チェックが入っていないと、当該プロジェクトに関連するファイルのみが圧縮されます。

Clear Output/Error/Warning window before running process

プロセス実行時の Output/Error/Warning ウインドウに関する設定です。チェックが入っているとプロセス実行のたびに、以前の結果はクリアされ新しいメッセージのみが表示されます。チェックが入っていないとプロセス実行のたびにメッセージが追記されていきます。

Maximum items shown in Recent item lists (0~20)

Start Page に表示する Recent Project（最近開いたプロジェクト）の数の設定です。

Maximum number of implementation processes in run manager (1~32)

ランマネージャで並列処理させる最大インプリメンテーション数の設定です。使用するコンピュータの CPU コア数以下の値を設定することを推奨します。

Maximum number of multi-par processes in run manager (1~32)

配置配線プロセスのストラテジ設定でマルチシード（Placement Iteration 値が 2 以上）処理にした場合、ランマネージャで並列処理させる最大数の設定です。使用するコンピュータの CPU コア数以下の値を設定することを推奨します。

Accept message support agreement [View Agreement]

右の『View Agreement』をクリックすると以下の様なメッセージを表示します。許容する場合はチェックマークを入れます。

Lattice Semiconductor would like to collect data on what software messages are being generated for your design. This information is completely anonymous and only consists of program name generating the message, the message ID, and the number of times the message occurred. Allowing this data to be collected will allow Lattice to better prioritize which messages need more content developed helping customers complete their designs easier and faster. Making checkbox "Accept message support agreement" be checked will allow this data to be collected.

3.3.2 Startup

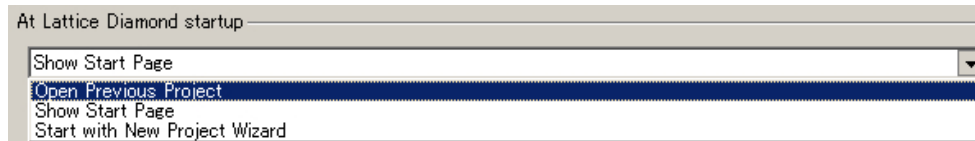
Startup セクションでは主にプロジェクト・ナビゲータの起動時の設定ができます。

At Lattice Diamond Start up

メニューから、Lattice Diamond が起動した際の振る舞いについて選択します。選択肢には以下の 3 つがあります。

- Open previous Project : 最後に開いたプロジェクトを開きます
- Show Start Page : プロジェクトが開かれず、Start Page が表示されます
- Start with New Project Wizard : 新しいプロジェクト作成ウィザードが起動します

図 3-23. Lattice Diamond 起動時の設定 ～ 起動時の表示設定



Automatic check software update when Lattice Diamond launches

Lattice Diamond は起動時に、自動的にアップデートの有無を検出する機能があります。この機能を有効にする場合はチェックを入れます。自動で検出させない場合はチェックを外します（マニュアルでアップデートのチェックはできます）。チェックを入れた場合は、さらに以下の 3 つからアップデート検出の周期を選択してチェックを入れます。

- Every time : 起動ごとに検出を行います
- Daily : 毎日最初の起動時に検出を行います
- Weekly : 毎週最初の起動時に検出を行います

Tool Startup as

各 Tool (のウインドウ) の起動時のアタッチ設定です。Attached 欄にチェックが入っていると、ツールは [task and tool specific view] 内のパネルとしてアタッチされて起動します (図 3-24)。チェックが入っていない場合は、独立したウインドウとして起動します (図 3-25)。

図 3-24. Attached 欄にチェックが入っている場合 ～ パッケージ・ビューの例

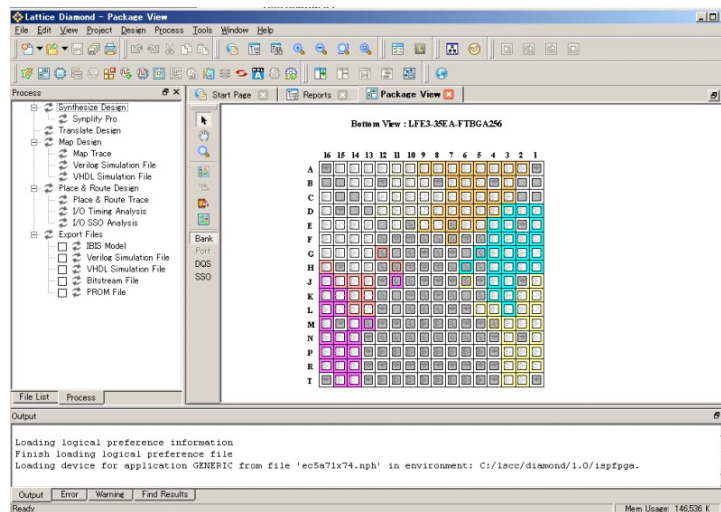
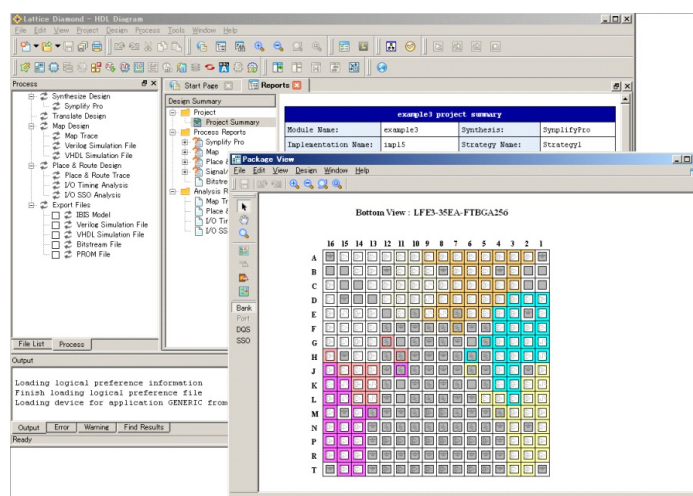


図 3-25. Attached 欄にチェックが入っていない場合 ～ パッケージ・ビューの例



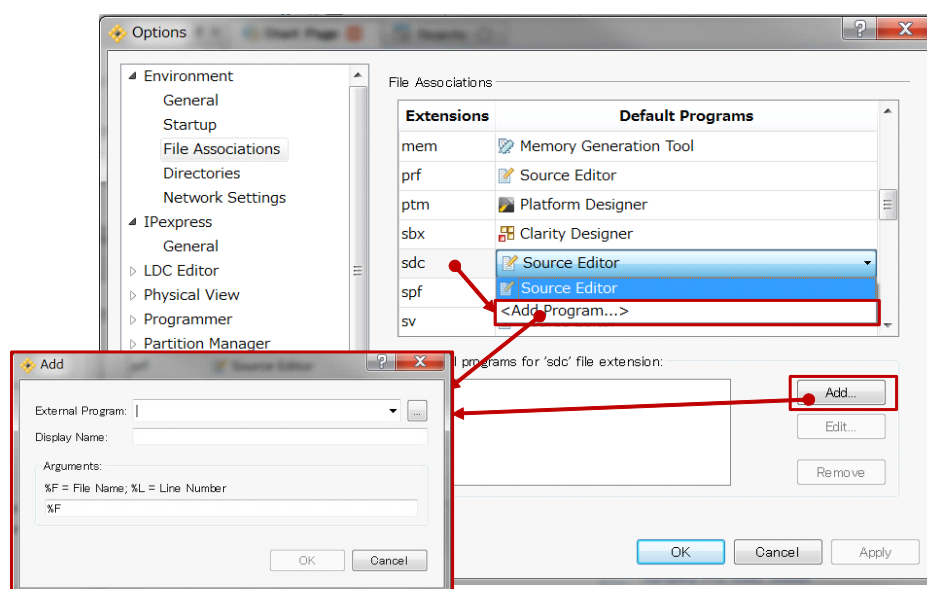
ツールによっては、プロジェクト・ナビゲータを再起動しないと設定が反映されないものがあります。

3.3.3 File Associations

File Associations セクションでは、各種ファイルとそれを開くプログラムの関連付け設定を行います。デフォルトでは全て Lattice Diamond のプログラムが関連付けられていますが、テキストエディタ等は好みに応じて常時使用しているものに変更することができます。関連付けるプログラムを変更する場合は、まず新しいプログラムを登録する必要があります。

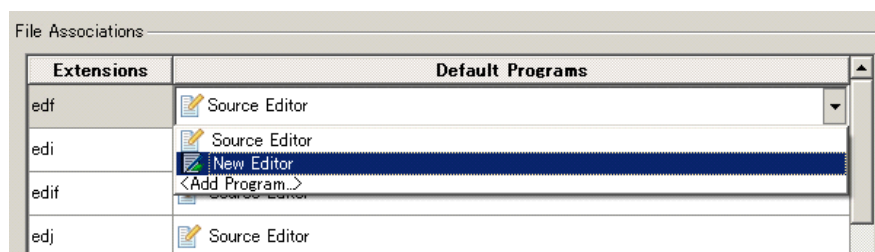
新しいプログラムを登録するには、まず関連付けを変更したいファイルの拡張子を選択した状態で、External program for *** file extension 欄の Add ボタンをクリックし、プログラムの追加ウインドウを立ち上げます（意図する行の Default Program 欄をクリックして "Add Program .." を選択しても同様）。

図 3-26. 関連付けプログラムの追加



このウインドウの External Program 欄で追加したいプログラムの実行ファイル (*.exe) を選択し、Display Name 欄に Lattice Diamond 上での表示名を入力します。Default Programs 欄をクリックすると、追加したプログラムが表示されるので、それを選択すれば関連付けが完了します（図 3-27）。

図 3-27. 関連付けプログラムの選択



*****-----

- ・ 関連付けプログラムの追加は、拡張子ごとに行う必要があります。過去に追加したプログラムの履歴は External Program 欄の右側の▼アイコンをクリックすると表示されます

*****-----

Argument 欄は、プログラム（テキストエディタ）起動時の引数の設定です。デフォルトではエディタ起動時にはファイル名のみが指定されていますが、引数として行数の指定をサポートしているエディタであれば適当な設定を行うことにより、エラーメッセージ等をダブルクリックすると問題の原因となった行へカーソルが飛ぶようになります（行数指定なしだとカーソルはファイルの先頭）。

3.3.4 Directories

Directories セクションでは、論理合成ツールやシミュレータのパス設定を行います。バンドルされているもの以外のバージョンを使用する場合等に設定を行います。

*****-----

- ・ Synplify Pro はサポートしていますが、Synplify はサポートしていません
- ・ バンドル版でない Synplify Pro を使用する場合は、UseOEM のチェックを外してください

*****-----

3.3.5 Network Settings

Lattice Diamond では、アップデート情報の検出や IP コアのダウンロード等でネットワーク接続が必要になります。ネットワーク接続にプロキシサーバを使用している場合は、このセクションでサーバ情報の設定を行ってください。

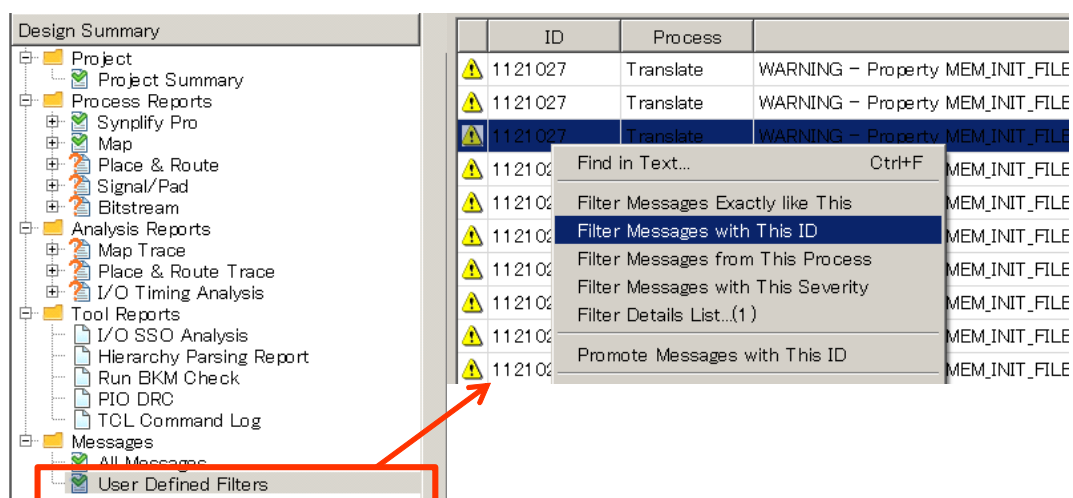
3.4 レポート・メッセージのカスタム化

Lattice Diamond では、プロジェクト・ナビゲータ内で表示する各プロセスでレポートされる各種メッセージの表示に関してカスタマイズ可能です。

ツールビュー・エリア内の「Design Summary」に各プロセス毎のレポートを選択する枠があります（図 3-28）。最下段にある [Message] から [User Defined Filters] を選択後、右の枠に表れる各メッセージに着目します。全てにメッセージ ID 番号とその生成されたプロセス、そしてメッセージが一覧表示されます。相当量のアイテムが表示されますが、殆どの場合は無視しても構わない Warning が占める場合が少なくありません。

このような場合、メッセージ行を選択後右クリックしてアクションを決定します。例えば [Filter Message with This ID] を選択した場合、同一 ID のメッセージは全てフィルタリングされて非表示となります。

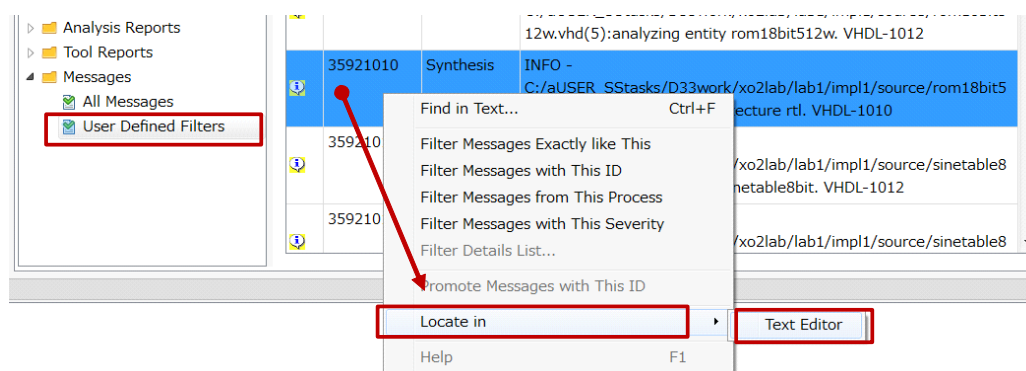
図 3-28. メッセージの表示とフィルタリング設定



基本的な推奨設計フローとしてエラーメッセージは勿論、全ての Warning を確認して無視できるかどうかを吟味することが期待されます。本機能はその作業を格段に効率化します。

メッセージによっては、該当箇所（ファイル）を特定するためにテキストエディタにジャンプすることができます。当該メッセージを選択後、右クリックして "Text Editor" を選択します。対象のファイルを表示してエディタが立ち上がります。

図 3-29. メッセージの該当箇所をエディタでリンク表示



3.5 改訂履歴

Ver.	Date	page	内 容
2.3F	June 30	3-2	”Module Library / Dictionary ウィンドウ ” の記述削除
		-	図 3-2 から図 3-5、図 3-15、図 3-22、それぞれ差し替え更新
		-	旧図 4-2 「HDL Diagram による構造解析」 削除
3.1		3-17	旧 3.4 節「Lattice Diamond のアップデート」を 1.7 節に移動
		3-17	3.4 節「レポート・メッセージのカスタム化」を追加
3.3	Mar.2015	--	一部の図を更新、追加など。 3.3 節項目など内容を更新。

--- *** ---